

ハンズオンセミナー 3

ステントバルーンを用いた 経皮的椎体形成術

講師



武政 龍一 先生

高知大学

日時

2021年 **8月28日(土)** **13:00-13:50**

開催方式

ハイブリッド開催 (現地・WEB)※

※WEBでのご参加に関する詳細は学会HPをご確認ください。

場所

ラボ展示会場 2

(JJI 東京サイエンスセンター Surgical Lab 3)

※ライブ視聴可 (学会への参加登録をされた方はどなたでもご覧いただけます)

定員

6名

参加費

無料 (事前オンライン登録となります) ※登録方法詳細は学会HPをご確認ください。

座長



山田 宏 先生

公立大学法人和歌山県立医科大学附属病院

ハンズオンセミナー 3

ステントバルーンを用いた 経皮的椎体形成術

武政 龍一

高知大学医学部整形外科・脊椎脊髄センター

経皮的後弯矯正術は、原発性骨粗鬆症による急性期有痛性脊椎圧迫骨折の除痛を目的として、骨折椎体内に骨セメントを充填することで安定性を高める治療として本邦で行われてきた。疼痛軽減が得られるだけでなく、脊椎圧迫骨折により減少した椎体高を、椎体用バルーンを用いて復元することにより脊柱後弯の矯正も期待できる。一方で、バルーンによるキャビティの形成後、バルーンを抜去して、骨セメントを充填するまでの間に、復元した椎体高の矯正損失が生じる等の問題点も指摘されている。

従来の経皮的後弯矯正術の課題を解決するため、バルーンカテーテルにマウントされた椎体用ステントが本邦に導入された。復元した椎体高を椎体用ステントで維持することにより、バルーン抜去後も復元した椎体高の矯正損失を防ぎ、セメント充填および硬化までの間一時的な椎体高の維持を行うことが可能となっている。本ハンズオンセミナーでは、椎体用ステントを用いた経皮的後弯矯正術の手技、各器械の使用方法について解説する。

参加申込方法

ご参加希望の方は、下記QRコードもしくはURL先の申し込みフォームよりお申込ください。尚、参加登録者の氏名は本セミナーの円滑な運営のために共催企業にも提供されます。



<https://site2.convention.co.jp/2021aospine-japan/>

